



# 感染・防寒対策と体調管理

先ごろ、月山や蔵王山の初冠雪について耳にしました。立冬も過ぎ、いよいよ本格的な冬に備える時期になってきました。

- 通学方法** ◆冬は、徒歩かスクールバスのみとなります。
- 防寒着** ◆防寒機能があり、派手な色やデザインでないもの。  
**セーターや下着類** ◆制服の中に着用してもよい。
- 通学靴** ◆雪や氷に対する安全性が最優先。防寒機能も重要です。  
※ヒールが高いものや、飾りなどが付いたおしゃれな靴は、プライベートで使用しましょう。
- 詳細は、10/25に配布しました「風をよぶ」を参考願います。

## 全校「スクリーニング」を実施

11月4日(金)、専門家による全校「スクリーニング」を実施。早め早めの対応で、生徒の健全発達を支援していきたい。



R4.7月7日発行の学校だよりでお伝えしましたとおり、市教育委員会の実施する事業の一環として「特別支援教育の推進」があります。

特に、通常学級において支援を必要としている児童生徒を把握し、早期に効果的な指導を行うため、軽度発達障がいに関する調査を、今年度も市内全

小・中学校ですすすめることになりました。この調査を「スクリーニング」といいます。今年は7月に1回めを実施し、今回が2回めとなります。

全国的な調査によると、通常、全児童生徒の6%程度が軽度の発達障がいの傾向を持つとされています。専門家によれば、どの人でもその傾向を持っているとの指摘もあり、強く出ているか弱く出ているかという違いだけだという所見もあります。

ただ、心配なこともあります。それは「軽度発達障がい」の傾向があることに気づかないでいて、人と話すのが極端に苦手なためにトラブルを起こしがちだったり、先生の話がよく聞き取れないためになかなか学力がつかなかったり、さらには、小さなことにこだわってケンカになったりする場合などがあるということです。

「軽度な発達障がい」は、早めの対応により飛躍的に改善したり、成長すると何でもないこともあります。しかし、見過ごされたり周囲の理解がないために、本人が人知れず苦しんでいる場合が往々にしてあります。そのためにスクリーニングを行い、小・中学校段階で「軽度な発達障がい」を早期に発見し、その子に応じた支援をしていこうとするものです。

今回も前回に引き続き、山形大学教授の三浦光哉(みうらこうや)先生をお招きしました。県下のみならず県外の多くの市町村でスクリーニングを実際に進められ、実績をあげていらっしゃる先生です。

4日(金)の3、4校時、全教室に出向き、掲示物や生徒の学習の様子を見ていただきました。

今後、必要に応じてご家庭とも相談し、生徒が、今後もよりよく生活できるように対応していく予定です。



**重要!**

### 「アラート」への対応について

【自宅や建物内にいる時】

- ・窓から離れ、机や近くにあるもので落下物から頭部と身体を守る。

【登下校途中や屋外にいる時】

- ・スクールバス乗車中は、運転手さんの指示に従う。
- ・自転車運転中は、停車し近くに住居等があれば避難をさせていただく。
- ・屋外から室内に避難し、可能な限り机や近くにあるもので落下物から頭部と身体を守る。

【お詫びと訂正】 No53号で紹介した美術作品「2年静物画」は「1年静物画」の誤りでした。申し訳ありませんでした。